

千葉大学がRE100達成を目指す長期ビジョンを宣言 「サステナビリティレポート2020」を発行

～75人の学生で制作、COVID-19の影響で学長インタビューもオンライン～

国立大学法人千葉大学は、2040年までに消費電力量のすべてを再生可能エネルギー電力で賄うこと（RE100）を目指す長期ビジョンを宣言した「サステナビリティレポート2020」を9月30日（水）に発行しました。

■千葉大学のサステナビリティレポートについて ～75人の学生が編集に携わって完成

千葉大学は国際規格ISO14001を学生主体で取得、継続しており、その活動を学生の実務教育の機会ととらえています。そのため、2004年度から発行している環境報告書（2019年より「サステナビリティレポート」）も、環境ISO学生委員会の学生が編集長を務め、学生が手分けして原稿の構成・取材・執筆・校正を行って原案を作成しています。教職員の校正の後、デザイン専攻の学生がデザインを行い、約1年をかけて完成に至ります。今年には16人の編集部、58人の執筆担当者、1人のデザイナーの計75人の学生が関わって制作しました。

本レポートは9月30日（水）に冊子で発行したほか、大学Webサイトにて公開しました。

本日公開した「千葉大学サステナビリティレポート2020」

<https://www.chiba-u.ac.jp/general/approach/environment/index.html>

■2020年版の特徴

長期ビジョン「千葉大学は2040年までにRE100達成を目指します」を宣言

本レポートで初めて、千葉大学は2040年までに、消費電力量のすべてを再生可能エネルギー電力で賄うこと（RE100）を目指すことを宣言しました（本編p.11）。

COVID-19の影響と対応

取材や執筆作業が本格化した4月から、COVID-19の影響で編集作業をオンラインに切り替え、例年対面で行っている、環境ISO学生委員会の委員長による学長インタビューもオンラインで実施しました（本編p.4-5）。

また、SDGsの理念に沿って「『誰一人取り残さない』形での新型コロナウイルス感染症対応を目指して」という特集記事を作成し、附属病院での患者受け入れ状況や教育の学生支援について記述しました（本編p.12）。

SDGsの達成に貢献する研究・教育、学生生活の社会的側面を充実

「サステナビリティレポート」と名称を改定した2019年版で、環境分野だけではない社会的側面として初めて、SDGsに対する5つの取り組みを掲載しましたが、今回は11の取り組みを取り上げました（本編p.45-50）。また、読者の皆様に千葉大学のSDGsに対する取り組みが明確に分かるよう各ページにSDGsのアイコンを掲載しました。

環境配慮として2019年版と比べてレポート全体を16ページ削減

ページ構成や文章量の見直しに力を入れ、2019年版比16ページの削減を実現しました。また、印刷部数は必要最低限とし、FSC認証の用紙使用や植物油インキの使用など、印刷の工程における環境配慮を行い、さらに、印刷・製本に使用する電力（306.97kWh）は、バイオマス発電のグリーン電力で賄いました。

■編集長のコメント 環境ISO学生委員会 サステナビリティレポート2020編集長 橋優実（文学部3年）

編集作業を通じて、SDGsの達成に向けた取り組みについて深く考えることができました。また、読者を意識することにより、自分以外の人の視点で物事を考えることの大切さを学びました。本レポートを通して、千葉大学の活動への理解を深めていただき、SDGsの達成に向けた取り組みの促進に貢献できたら幸いです。



▲学長インタビューの様子



▲2020年版表紙・裏表紙
SDGsの17目標のカラーの人型
が手を繋いでいる

■各章の主な内容

はじめに

学長からのメッセージ、特集：長期ビジョン、特集：新型コロナウイルス感染症対応、2019年度受賞実績、環境・エネルギー方針、千葉大学の環境マネジメントシステムの概要 など

第1章 総合大学としての特色を活かして～SDGsに貢献する人材の育成～

SDGs・環境に関する最先端の研究、大学の環境教育、附属学校における環境教育・活動 など

第2章 サステナブルキャンパスを目指して～4つの柱で快適なキャンパスライフを～

「脱炭素」「循環型」「自然共生」「安心安全」の4つの側面からの環境活動と成果、大学に関連する事業者の環境配慮活動について

第3章 千葉大学が誇る学生主体の環境活動～大学から、地域・社会・世界へ～

特集：2019年度に行った挑戦、企業と連携した取り組み、地域社会との交流、国内・世界への発信 など

第4章 誰一人取り残さない社会の実現に向けて～SDGsの社会的側面の取り組みについて～

ダイバーシティ推進、教育・研究における社会的な取り組み、学生のボランティア・国際協力活動 など

第5章 環境・エネルギーマネジメントシステムの運用状況

内部監査、環境目的・目標の達成度評価、法規制の順守状況、物質収支、環境会計 など

第6章 環境報告書の基本項目

第三者意見、環境報告ガイドライン対応表、編集後記

■デザイナーのコメント 佐藤拓海（千葉大学大学院融合理工学府創成工学専攻デザインコース博士前期課程1年）

千葉大学がSDGsの目標に向けて多くの人たちと協力し合いながら、活動を行ってきたということを伝えられるようなデザインを目指しました。テーマは人と人との「繋がり」です。SDGsの各目標のカラーで、手を繋いだ人型のアイコンをメインイメージに使用しています。また、このテーマには、新型コロナウイルスが猛威を振るう中で、地域さらには世界全体で繋がりが合い、協力していけたらという意味合いも込めています。

大学概要



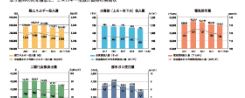
大学	1949年10月1日	所在地	千葉県千葉市中央区
学長	佐藤 隆夫	学務長	佐藤 隆夫
副学長	佐藤 隆夫	学務副長	佐藤 隆夫
学務部	〒277-8522 千葉県千葉市中央区	TEL	043-235-1111
学生部	〒277-8522 千葉県千葉市中央区	TEL	043-235-1111

附属学校における環境教育・環境活動


- 附属幼稚園における取り組み「クリーンデー」
- 附属小学校における取り組み「環境ふり」
- 附属中学校における取り組み
- 附属高等学校における取り組み
- 附属特別支援学校における取り組み

脱炭素キャンパスを目指して

エネルギー消費量の推移



学生・教職員のエネ意識について



企業と連携したSDGsの取り組み

千葉大学×民間企業とのプロジェクト



千葉大学×民間企業との協働プロジェクト



学生活動における社会的な取り組み

ふれあいの森



社会貢献活動



物質収支 (マテリアルバランス)



建設・運営に係る排出量について



外部の方々との意見交換会



■千葉大学環境ISO学生委員会とは

2003年10月、千葉大学においてISO14001認証取得への動きが始まるとともに発足し、環境マネジメントシステムの構築・運用を大学組織の一員として行う学生委員会。現在では、学内の研修講師、目的目標実施計画の原案作成、内部監査、外部審査対応、環境報告書作成、省エネ省資源・緑化・堆肥化等の活動、地域との連携、学内への啓発活動などを担当。